山弓連会報 平8・第4号　さんきゅうれん　平成8年10月17日発行

山弓連
平8年 第四号

市の部は団体・個人男女とも郡内勢独占V

町の部(団体男女とも)ハイレベルの優勝

―山梨県体育祭り弓道競技会―

9月15日、市・村の部は緑が丘弓道場で、町の部は小瀬武道館で開催。昨年度は台風の為中止したので、ことしの大会は二年ぶり。各地から集まったメンバーを見ると、選手層の若返りが目立つ。県全体の会員登録数は漸減の傾向にはあるが、この大会にみられる若者層の進出は おおいに心強く感じた。競技の中でもこれら若者層の活躍が目立った大会であった。

団体戦では、市の部男女とも郡内勢が優勝。地域比重やや東に傾く。町・村の部は、それぞれ常連が上位入賞し、勢力地図にさしたる変化なし。その中で、市の部女子15中(都留)町の部男子18中(南部)女子15中(櫛形)はいずれも団体なみ(?)の的中で、市町村単独チームとしては上出来の成績。

個人戦では、高校卒業したばかりの若者と、弓歴の長いベテランとが、しのぎをけずっての熱戦となったが、特に市・町の部では男女とも「7中」をめぐその高水準の接戦となり会場を沸かせた。結果は、男子は若者が、女子はベテランがそれぞれ勝って、世代交代戦争は今回は引き分けとなり、勝負は来年以降にもちこされた。

※註(オコトワリ)これは別に、近く行われる総選挙のことを占ったのではない。脱線陳謝。

大会成績は別表の通り。

県ねんりんぴっく

弓道交流大会

9月22日(日)緑が丘弓道場で開催。参加申しこみは78名あったが、折あしく台風17号接近という悪条件のせいか欠場者が多くて、参加実人員は39名と、半数に減る。しかし参加者一同意気軒昂、若い頃の射を思い出しながらの懸命の熱戦を展開した。

競技は各自8射で個人戦のみ行う。成績は次の通り。

一位 平山 孚(勝沼)7中
二位 坂崎満子(〃)6中
三位 山下連美(春日居)6中

なお参加者中の高令ベストスリーは次の通り。秋山甲子雄89才、塚越綱太郎87才、小林英勇82才。ご苦労さまでした。来年も是非参加して下さい。どうぞいつまでもお元気で。

なお、この大会の入賞者がどうして全国ねんりんぴっくの選手にならないのかという指摘があったが――それは全国大会の申しこみが毎年7月である為、間に合わないから。全国大会出場希望者は、一次(4月)二次(6月)の県予選会に申しこまれたし。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

	市町村	男女	一位	二位	三位	申込み	参加
団体	市	男	富士吉田 23中	甲府 19中	大月 17中	7	7
団体	市	女	都留 15中	富士吉田 11中	塩山 10中	6	6
団体	町	男	南部 18中	春日居 16中	勝沼 16中	26	23
団体	町	男	(巨)白根 15中	(巨)石和 13中			オープン参加 2
団体	町	女	櫛形 15中	富沢 9中	増穂 9中	14	10
団体	村	男	明野 9中	豊富 8中	境川 5中	5	3
団体	村	女	境川 10中	大和 9中	明野 3中	5	3
個人	市	男	井上貴文(吉田)7	綿奈部博文(甲府)7	森嶋博文(塩山)7	35	35
個人	市	女	中村ミ江(都留)7	渡辺智恵子(吉田)5	功刀美智子(韮崎)5	18	18
個人	町	男	中込実(白根)7	吹野賢(豊富)7	矢崎忠幸(石和)7	78	73
個人	町	女	小林弘子(櫛形)7	渡辺美子(富沢)5	塩沢美絵(櫛形)4	42	30
個人	村	男	清水豊(明野)5	川口正秀(豊富)4	志村重治(境川)3	15	11
個人	村	女	山下喜与美(大和)6	雨宮千代子(境川)5	曽根敦子(境川)3	15	11

武道館開館記念大会

県立武道館は昨年起工、ことし6月18日に竣工式を行い、8月のインターハイで華々しくオープンした。山弓連では開館を記念して、9月1日(日)に県下弓道大会を開いた。武道館の一般公開は9月からということなので、この大会は、公開第1日目の使用第1号ということになる。

参加申しこみは175名、但し参加実人員129名。山弓連主催の大会としては、ここ数年来の最高人数。

中沢前会長の巻藁射礼、上条会長の矢渡しのあと、全員の祝射(一手)を行い、次いで四ツ矢の競技に移る。

5人立ち2射場でもゆとりのある広々とした射場、緑のすがすがしい矢道の芝生、暑い夏の日にも、天井から涼風が吹き出してくる心地よさ―の中で、"至誠一箭"それぞれが一射一射に誠を尽くして行射した。この大会の盛大なもり上がりが、これからの山弓連の前途を象徴しているようであった。

その結果、入賞者は次の通り。(祝射2射の的中も成績に含む)

一位 渡辺元樹(吉田)5中
二位 白須喜人(〃)5中
三位 細沢 満(甲府)6中
四位 小林太一(大月)5中
五位 深沢義重(中巨)5中
六位 不動田光熙(北都)4中
七位 井上貴文(吉田)4中
八位 渡辺智恵子(吉田)4中
九位 佐野辰巳(南巨)4中
十位 中村ミツ江(都留)4中

全日本弓道選手権大会

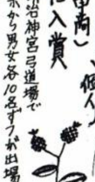
ことしの全日本選手権大会(実質的な「弓道日本一」を決める大会)は、9月19~21日に男子の部、21~23日に女子の部が行われた。山梨からは、男子の部に佐野辰巳(関東ブロック代表)大村利正(県代表)の両選手が出場したが、女子の部は欠場した。

大会は、一次予選、二次予選(いずれも採点制)を通過した者が、決勝で的中を争うというきびしい方法で行われる。本県両選手健斗したが、惜しくも予選で惜敗、決勝進出は成らなかった。

この山は、けわしく、かつ高い山だが、来年また誰かが挑戦して下さい。

関東高校選手権(個人)

古屋(甲南)六位に入賞



9月15日明治神宮弓道場で開催。各県から男女各10名ずつが出場。

○男子の部
本県選手は6人が予選通過(4射3中以上)。準決勝では4中の古屋(甲南)ひとりが通過。3中の3人は落選。決勝射詰めで古屋がんばって6位入賞。

○女子の部
4射3中以上の予選通過ラインを突破したのは宮崎(農林)のみ。他の9人はいずれも2中以下で失格。準決勝で宮崎健斗したが惜敗。

インターハイを終って

平成8年度全国高等学校総合体育大会・第41回全国高等学校弓道大会が、新設された山梨県小瀬スポーツ公園武道館弓道場に於いて、参加二三七校、選手七三五名、監督二三八名の参加のもと、8月5日開会式、6日個人戦、7日団体予選、8日団体決勝トーナメントの日程で開催され、無事終了することができました。

山梨県は甲斐の国。武田節の一節に「人は石垣、人は城」とありますが、大会の役員・補助員が、この歌詞の如くにスクラムを組み、チームワークよく献身的に運営に当たったこと、及び、的前審判、射場審判、弓具点検という要所を県弓連の先生方に担当してもらえたことが、大会成功の最大要因であったように思います。加えて、全国から参加した選手・監督のみなさんの、弓道にかける熱き思いが一体となり、大会が大きく盛り上ったように思います。

山梨県高体連弓道専門部において、大会を準備するにあたって心がけた点は、方針を決める際に徹底して論議し、みんなが納得した上で行動に移っていくことと、それぞれの役割りの内容を熟知して主体的に準備・実行できるようにしたことです。このことが、本会場の竣工が大会開催の二か月前というハンデや、役員の絶対数不足という不利な条件を克服していく力になったように思います。

また、他県においては、高体連と県連との仲が必ずしもうまくいっておらず、大会を運営するに当っての協力関係がうまく築けないなどということを耳にします。しかし本県においてはそのようなことはなく、今大会も、連盟からさまざまな形での協力をいただけたことなど、日頃からの両者の連携の重要性を改めて認識したところでもあります。

終わりになりましたが、大会を成功に導いて下さいました関係諸氏に心より御礼申し上げます。

(高体連弓道専門部委員長 菊池 敏孝)

第2回評議員会

9月22日、ねんりんぴっく大会終了後に、緑が丘スポーツ会館で開催。会議の中で決定した主なこと次の通り。

1、新年初射会は予定通り1月5日、武道館で。全員の祝射(一手)と四ツ矢の競技を行う。

2、来年度の段位別選手権大会(4月)は、
(1)「初段以下」の部を廃止して「三段以下」に統合。
(2)「女子」の部を廃止して、男女オープンとする。
その結果、「三段以下」「四段」「五段(称号なしの六段含む)」「称号受有」の四種別とする。

3、来年度の春季審査は、人数が多くないと見込まれるので、「段位」と「査定」とを同日に(第三日曜)実施する。
また、8月の「三段までと査定」の審査は、来年度もう一度実施し、その受審人数を見た上でその後のことは決める。

4、関東連合審査は、来年度も実施する。5月第2日曜の予定。受審希望者は準備のため、特に肌ぬぎを含む体配に留意のこと。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

事務局から

○国体(ヒロシマ)は昨日終了。本県の成績は次の通り。
近的成男~予選17中で通過・トーナメント1回戦で栃木に9対7で敗れ、入賞成らず。
遠的成男~予選17中で落選。ザンネン。
監督 河西伊三男、選手は 荒井純孝、白須吉人、中込実。
ご苦労さまでした。ことしの経験を生かしての来年への飛躍を期待します。
成年・少年男女チームも、来年こそ!!

○境川村と新潟県の中条町とが、浅利与市とハンガク姫との縁で姉妹町村になったというニュースを聞きました。弓道の交流なども始まるといいですね。小笠原流や、武田流との交流なども、どこかで手がけてみませんか。では皆さんお元気で。